一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会

編集者
岡本博和

公民館新設　来年度から動く
一小の砂塵（砂ぼこり）対策　学校側と初会合
みんなの便り　投稿　身近なニュース・お知らせ　公民館まで

第三回　地域懇談会で市長

来年度　一身田公民館新築　予算計上を表明

三回目となる市長肝いりの地域懇談会が11月27日（日）一身田中学校会議室で行われた。（傍聴者23名）地域懇談会は地域の問題点や課題を行政側と共に考え解決しようとするもので、6カ月以内に行政側は回答することとなっている。

第一回は平成27年11月23日、第二回は平成28年5月29日、今回が3回目となった。この懇談会を通じて早急に対策を講じた事案もあり、連合自治会長の望木氏が謝辞を述べる場面もあった。

前葉津市長

一身田地区住民の悲願である公民館の早期実現に向けて再度質問した社会福祉協議会会長の水谷氏に対して前葉市長は、「来年度設計予算に組み込みたい」と答弁した。但し全館バリアフリー化や一階のサロン化、エレーベーターの設置や避難所としての機能をどのようにするかなど課題も多いことも指摘、いずれにしても地元の声を聴きながら進めていくと話した。

砂ぼこり対策

数十年来の一身田小学校の砂ぼこり問題について自治会は、視察や一小PTAとの協議を持つなど、あらゆる所で対処を要望してきた。その結果今回の懇談会で初めて飛散しにくい砂を入れることを検討していることが明らかになった。

さらに、校庭東側のコンクリートの壁にいくつもの亀裂が入り甚大な被害が生じる可能性が高いとの住民の指摘に対し、教育次長は「早急に調査する」と答えた。

鳥害・獣害対策

志登茂団地南側水路に数百羽のカワウなどの野鳥が住みつき、鳴き声や糞、悪臭で住民を困らせていた鳥害問題は、津市が竹や雑木を伐採、ドローンを飛ばし威嚇すること8回、確認していた216羽の野鳥は現在ほとんど見られなくなった。

こうした素早い対応に当地区の自治会長や連合会長からの謝辞があった。しかし、今度は平野地区自治会長の中尾氏から「アライグマが住みつき、野菜などが被害にあっている。どうすればいいのか」と質問。市長は、「アライグマは特定外来種であるので誰でもが捕獲することができる。津市に檻が52個ある。市内で10月までに51頭捕獲した。市役所内に相談チームがあるので相談して欲しい」と答弁した。

道路整備・交通安全

高田本山唐門から一小へ抜ける市道（一身田町8号線）は幅3，7mほどの狭い道路でありながら交通量が多く、対向もできないような道路であり、しかも子ども達の通学路で交差点もある。一身田地区で最も交通事故の多い場所である。前回と今回の懇談会で道路の拡幅を要望しているが実現には程遠い。行政側の言い分は住民が住んでいて立ち退きには一定の理解が必要との立場。

ところが現実には幸か不幸か空き家がほとんど。住んでいる住民からも協力的な声もある。交通安全や高田本山への景観も含めて早期の対応が望まれる。

岩崎病院前から中野方面に抜ける市道の浜田長岡線（注1）は平成29年度から道路設計に入る。車道と歩道を分離するとの報告があったが、高低差も当然考慮が必要であろう。

その他

民生・児童委員会が要望した児童の名簿開示については平成年29度より開示する予定。

PTAや交通安全推進協議会から要望があった夢が丘の児童が通るJAみどりの交差点前の歩車分離信号の設置については継続審議となった。

前回の懇談会で要望した空き家については、屋根の補修済みの1戸を残して解体作業に着手したとの報告があった。

防犯カメラの設置、空き店舗対策の要望もあった。

（注1）市道浜田長岡線は平成29年度中に道路設計を行い、その後、土地買収を行う。期間は概ね4～5年を予定している。歩車分離の9m道路とし、中野方面の傾斜は今より幾らかになる。但し、国や県の補助金の関係上完成は遅れることもある。（津市建設部建設整備課）

一年を振り返って

一身田地区自治会連合会　会長　望木幹雄

今年もあっという間に師走に入りましたが大変な1年でした。4月の熊本地震を皮切りに北海道豪雨被害等日本列島の南北で自然災害が頻発しております。

幸い当地区には直接の被害が無く、大変な被害が発生した熊本地震のお見舞いをと連合会、社／協が合同で6月にマックスバリュー（上津部田）出入り口で募金活動を行い集まった募金に若干の上乗せをして津市社／協本部に届けさせていただきました。募金にご協力いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

今年の自治会活動の主たるものとして5月、11月の2回実施された地域懇談会での提案とその後の流れについてすこし触れさせていただきますと、①公民館の新築要請に対しては29年度には設計調査費の予算が計上され住民サイドと設備内容等の協議が開始される見込みです。

②小学校校庭の芝生化についてはPTA、学校側とこれからも協議を重ねて早期の実現を目指すものです。

③廃屋化した空き家、志登茂団地のカワウ被害等の問題については市役所職員が積極的に汗を流していただき解決に向けて進んでおります。

④その他4月には津市景観重点地区第1号に寺内町が指定されました。一身田らしい景観を維持する為には皆様のご理解とご協力が必要です。今後も当地区の活性化の為に町内全ての団体と一致協力して前進していきたいと考えております。これには住民皆様のお力添えが必須です。どうかこれからも引き続いてご協力をいただきたく宜しくお願い申し上げます。

来年はトランプショック、新モンロー主義の台頭等でどれだけ様変わりするのか予測不能ですが、当地一身田は今年以上に楽しく賑やかで人に優しく、気候的にも五風十雨であることを願うものです。

一小の砂ぼこり問題で

自治会、関係団体　PTAや学校評議員らと初会合

10月26日（水）一身田小学校校庭の砂ぼこり（砂塵）問題について緑化推進協議会、該当住民、関係団体、PTA、学校評議員など45名が出席して同会議室で初会合が持たれた。

◇

古くて長い砂ぼこり問題。一説には昭和58年一小新校舎建設時から始まったと云われている。

一小のような大規模校は運動場も広く砂ぼこりが舞い上がるのも半端な量ではない。学校東側地域の緑宝（りょくほう）区、橋向区が被害甚大である。11月下旬から2月までの冬場は戸外で洗濯物が干せず戸も開きにくい状態が続く。

南が丘小学校、養正小学校、栗真小学校、北立誠小学校、南立誠小学校、大里小学校、白塚小学校の状況を見てきたと云う坪内氏は「一小の砂の堆積は断トツに多い」と話される。

校庭の緑化を提案

緑化推進協議会会長の望木氏は「この問題は何年も前から声は届いていた。教育委員会もいろいろな対策を執ってきたが抜本的な解決策に至っていない」と述べ『校庭の緑化』を提案した。

一小校庭に芝生を植えることによって「砂ぼこりが防げる。子ども達の運動量も増える。ケガが少なくなる。温暖化の防止にもなる。農薬は使わない」と主張。「2年前から先進地を視察したり協議会を立ち上げたり、行政に要望書を出したり地域懇談会など事ある毎に要望してきた」と話した。

これに対しPTAや学校側から異論がでた。同副会長の濱氏は「最初に芝生ありきではなく、もう少し議論があっても良いのではないか」と指摘、同女性会員からは「芝生を植えれば農薬を使うのでは？芝生ではなく重い砂やコルクなどで砂ぼこり対策ができないか」と提案。学校長は「伊勢市御園の小学校ではスプリンクラーを設置、大きな効果がでている」と報告した。

学校評議員の西川氏は「芝生化は維持管理、費用、労働、芝生の補充など難題があるのでは」と疑問を呈した。

これとは別に堆積した砂によって学校東側の塀に亀裂が何か所もあり、地震やちょっとしたコトで倒壊のおそれがあることも地域住民から指摘があった。

一小校庭の砂ぼこり対策　活発な議論が交わされた

お七夜さん時の交通規制

来年から一部変更

高田本山最大のイベント『お七夜さん』が1月9日～16日まで行われる。例年、期間中、寺町通り（本山通り）、仲之町通り、橋向通りは車の通行禁止区域となっていたが、平日は仲之町通り、橋向通りは通常の通行が可能となった。

みんなの便り

練習に励むFCナイン　南グランドで

一身田FCを紹介します

一身田FC　草川秀夫

平成3年に一身田小学校に「一身田フットボール・クラブ」として設立しました。設立当初は十数人のチームで、津市サッカー協会のリーグ戦参加は6年生リーグに参加するのがやっとのチームで練習もみんなが一緒に行うような状況でした。

徐々に人数も増え現在は、61名となり各学年ごとにテーマを持って練習ができるようになりました。

低学年の子供たちには、サッカーの面白さ、基礎の練習、集団での行動ができるように練習をしています、高学年は習得した技術の成果を対外試合で試し、良い点、悪い点を修正する練習をしています。

サッカー競技はご存知の通り団体競技です。一人うまくても試合に勝つことはできません。全員のチームワークと意思疎通がないと試合になりませんので練習は個人技もありますがチームワークと試合を全員で組み立てる練習をしています。

平成26年には全日本少年サッカー大会へ三重県代表として出場しました。

今年度も2回目出場を目指し練習に励みましたが、残念ながら3位となりました。

練習場所は毎週土曜日一身田小学校南グランドで行っていますので見学に来てください。

一小の花壇　花いっぱい

フラワーボランティアらが植える

10月29日・11月12日、一小玄関前の花壇にフラワーボランティア(長谷川富美代代表　会員12名)のメンバーや民生委員、教職員ら40人が2日間かけてパンジーやチューリップを植えた。

◇

10年前の一小花壇は荒れ放題の状態。これを目の当たりにした会員の一人が学校側に花壇の手入れをしたいと申し込んだのが始まり。仲間を募り、自前で苗や肥料を持ち寄った。

現在、民生委員や地区社協、赤塚植物園、PTAから物心両面で支援を得ている。

先日、一小園芸委員会の子どもから「おばちゃん達と花を植えたり水をやったりするのがほんとうに楽しい、家でも世話をしています」との手紙をいただき「やってよかった」と長谷川さんは話されてる。

「月に一日程度ですが子ども達と一緒に世話をしませんか」と長谷川さんは呼びかけている。

☎232　5955まで

みんなで凧を揚げよう！

一身田地区社会福祉協議会　会長　水谷千春

一身田地区社会福祉協議会の事業も皆様のご協力により、フラワー研修会、防災研修会、敬老のつどい、グランドゴルフ大会など順調に終えることができ、残すところは、「一身田元気凧揚げ大会」だけとなりました。

凧揚げは、お正月の風物詩です。全国各地で凧揚げ大会が開催され、町おこしの起爆剤にもなっております。

「一身田元気凧揚げ大会」は当初に比べ子ども達の参加が少なくなっています。親子の絆、仲間の絆、地域の絆を深める上でも多くの参加をお待ちしています。

スケジュールは以下の通り

親子凧作り
平成29年1月28日
一小体育館
午前9時～

凧揚げ大会
2月12日(日)
身障者センターグランド
午前9時～

地区社協（体育振興会）主催
グランドゴルフ大会
136人が参加

9才から86才までの136人が参加してのグランドゴルフ大会が11月20日(日)一小グランドで行われた。

今回のルールは8ホールを3回周り最少得点を競うものである。

全国的にグランドゴルフ熱は毎年高まり、30万人の愛好家がいると云われている。一身田地区の熱も凄く、グランドゴルフクラブの会員も40人を越えている。

しかも雨の日以外は毎日練習や試合をするという熱の入れよう。全国大会にも5人が出場している。(中川栄子さん)

今大会一番高齢者の平岡登志雄さん(86才)は、「みんなでワイワイと楽しくできるのが最高、しかも健康の秘訣」と話される。最年少の田中大河君(9才)は「ちょっとドキドキしたがおもしろかった」と感想を述べた。

優勝は豊野団地の西宮弘恭さん(76才)。優勝賞品のストーブを貰い、「身も心も満足した」と喜びを語った。

ホールインワンも35人が行い、それぞれ副賞が手渡された。

入賞者は以下の通り

準優勝　西山　弘
3位　後久修一
4位　平岡喜美子

育て地域ブランド
一身田印ブランド14品目を認定

一身田商工振興会　会長　中川隆功

一身田印認定協議会(会長:高田短期大学杉浦礼子教授)は平成27年11月に、商工振興会・自治会連合会・婦人会・高田本山・百五銀行・高田短大・三重短大の団体により発足しました。

「一身田印」という地域ブランドを設立し、一身田のおすすめ商品をわかりやすくお伝えできるようにすることが目的です。認定は独自の基準を設けて年に2度ほどの認定協議会にて決定します。また短大生の若い柔軟なアイデアを取り入れて、地元商店とコラボし、新規商品の開発も実施しております。

一身田の豊富な既存の名物商品に加え、新たな商品を発掘し、今後認定商品の充実を図っていきます。

(注)次号より認定商品や申し込み方法、協議会の取り組み等を報告します。(編集長)

一身田印ロゴマーク

「夕刊三重旗大会」優勝

一身田スポーツ少年団　団長　小澤康孝

10月23日、29日に松阪市で三重県下32チーム参加で開催された「夕刊三重旗争奪小学生ソフトボール大会」で一身田スポーツ少年団が優勝しました。

一回戦は海山クラブ(紀北町)に6-2、二回戦は豊田スポ少(松阪市)に10-2、準々決勝は上野スポ少(津市)に23-1、準決勝は千里ヶ丘スポ少(津市)に3-3(同点抽選勝ち)、決勝は天白スポ少(松阪市)に5-2で勝利しました。

優勝旗、賞状、トロフィー、そして全員に優勝メダルをいただき、特に小学校卒業まで残りわずかとなった6年生の団員たちは、いい思い出を作ることができました。

今シーズンは3月～11月13日現在でソフトボールの大会やリーグ戦で64試合を消化しました。結果は45勝18敗1分で勝率は7割3厘、打率は2割8分3厘、43本のホームランが飛び出しました。1月末までに4大会10試合ほどと残り少なくなりましたが、チーム一丸となって、楽しく元気に戦っていきたいと思います。

「お正月」を考える

一御田神社　宮司　盟田　匡

師走を迎え各ご家庭や職場では大掃除やおせち料理の準備等、新しい年を迎える準備に慌ただしい毎日を過ごされている事と存じます。

古来日本人は「清潔感」や「すがすがしさ」を暮らしの中で重要なものとしてとても大切にしてきました。夜が明け一日が始まるのが「朝」、月が替わる「朔日」、そして年が替わり新年の始まりが「元旦」です。繰り返し新しく替わり続ける事は「清潔感」や「すがすがしさ」を実感できるとてもおめでたい事としてみんなでその喜びを祝い分かち合いました。

それは、「とこわか」と言う神社にとって重要な式年遷宮の基となる考えでもあります。

本年の大晦日は神社の新しい企画として『一御田干支絵馬提灯』の奉納を企画いたしました。皆さんの願いを提灯の明かりに映し出し境内参道を飾る予定です。ぜひとも年越し参りにおこし頂き、年の改まるその「すがすがしさ」とやさしい「願い」を皆様でご堪能ください。

いちみたえとえまちょうちん
一御田干支絵馬提灯
アンドン形式の絵馬で願い事を記入して頂き一年間拝殿に奉納します。初穂料一年間3，000円
詳しくは盟田宮司まで
090－3308－0071

高さ45cm直径20cmの行燈

文化祭へのご協力ありがとうございました

一身田公民館長　米川　武宏

10月22日(土)、23日(日)、29日(土)の3日間とも好天に恵まれ、多くの方に来場していただくことができました。

オープニングでは高田保育園の子どもたちの一生懸命に演奏する姿に感動し、見事に仕上がった数々の作品と堂々と発表される姿に感銘を受け、そしてお楽しみ抽選会で一喜一憂する会場の皆さんの姿に充実感を得た文化祭でした。

355点の作品展示、11グループによる学習発表、437個の提供を受けた日用品バザー、688名の方のご来場など、数字の上でも盛会であったことが感じられました。講座生の皆さんのご努力、そして地域の皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。